

新町長の町政運営について

Q 愛荘町をどのような町にしようと
考えているのか

A すべての世代が暮らしてよかったと実感
できる町に



西澤 桂一 議員

問 選挙期間中に配布されたチラシで

- 愛知中学校の大規模改修
- 子ども達の通学路の危険箇所
のあぶり出しと改善
- 空家対策
- 高齢者を敬い身も心も健やかな福祉環境を整える
- 保育の充実
- 湖東三山SICと国道8号との主軸道路、町道の整備と拡充
- 魅力ある農業の創設
- 他市に勝る積極的な企業誘致

この他にも盛り沢山の公約が
されているが、どのような町
づくりに取り組むのかわかり
ない。

町民が理解し共有できる町
づくりの目標を示すことが必
要である。

町政運営

町民の皆さんも、若い町長の誕生に期待すると共に、安定感に一抹の不安を抱えておられるのが実態と思う。

今までと違った感覚と行動力に、また公平公正な町政の推進に邁進していただきたい。

答

町づくりの柱として「住んでよし」「訪れてよし」「住み続けてよし」の三つを基本目標として、各種政策を展開していく。

「住んでよし」とは、

- ① 子育てしてよしの実現に向け、子どもを安心してのびのびと育てられる環境を充実していく。
- ② 学んでよしの実現に向け、子ども達の学力を高めるための取り組みを推進する。

「訪れてよし」とは、

- ① 農業よしの実現に向け、魅力ある農業の創生を目指す。
- ② 商売してよしの実現に向け、賑わいを創出し、愛荘町の発信力の強化・競争力の強化に取組む。

「住み続けてのよし」とは、町民の命と財産を守るための防災システムの構築、居住環境・都市基盤の整備を図ること、安全・安心で快適に暮らせる町を構築していく。

新ごみ処理施設

Q 新ごみ処理施設の候補地選定理由と経過について

A 選定委員会からの報告書に基づき、彦根愛知犬上広域行政組合で決定した



澤田 源宏 議員

新ごみ処理施設に対する町長の考え

問 選挙期間中、「新ごみ処理施設の候補地については、地域皆さまと信頼関係を構築する」と説明されておられた町長の具体的な考えは。

答

(町長)

現時点において彦根愛知犬上広域行政組合の管理者会により竹原区が候補地と決定されていることから、地域住民の方々のご意見も十分伺いし対応方針を検討したいと考えている。

町民を代表する立場としては、町内のお声を尊重しない訳にはいかない。同時に、広域としての懸案であるゴミの処理は、生活をする上で避けては通れない重要課題であり、市町が単体でなく広域で処理を進めることも県の指針を踏まえたものである。

現在、同組合の管理者の判断のもとに竹原区が候補地となっているが、組合議会において各議員の様々なお立場のもと、竹原区を建設地とする施設整備基本計画を策定する

ことに関し議決を得ることは大変困難な状況もあると伺っている。

引き続き、愛荘町、また私と致しましても地域の方々の思いやご意見を重要要素とし、組合議会の動向、長期展望に立ったコスト試算、広域での生活基盤施設の負担状況等々の諸情報収集に努め対応の検討を進めていく。



新ごみ処理施設建設に反対する看板



新ごみ処理施設建設候補地



農作業中のトラクター

新ごみ処理施設

問 私は12月定例会で、第2回目の新ごみ処理施設整備基本計画検討委員会で、地元委員が辞退したことに関して委員長から「ごみ処理施設イメージの向上・周辺地域に対して理解を深める努力をすること。地元のいがみ合い・地域の分断現象は絶対起こしてはならない」という話があったことを紹介し、竹原地域と岩倉地域の感情問題に発展させてはならないと訴えた。

一方、彦根市において彦根市原町への誘致や、広域行政組合における彦根市議会議員

の行動から出口が見えない状態となってきた。この問題に対して、どのように取り組んでいくのか。

答

(町長)

建設候補地を愛荘町竹原地区に決定されたことに対し、周辺地域等から様々な意見が出てきている。

これらの意見を重要な要素としながら、情報収集に努め対応の検討を進めていく。



新ごみ処理施設の反対看板